

平成 25 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	関西学院大学災害復興制度研究所
活動テーマ	西宮市および周辺都市における県外避難者支援



私たちは、阪神・淡路大震災の県外避難者の状況から、県外避難者が地元や現在の居住地とのつながりが欠如し、精神的負担が大きいことがわかっている。それらを少しでも軽減し、新しい自立に向けての助けになるための活動を行うことが必要だと感じた。そのために、2011 年より社会福祉協議会や NPO と協働して、この目的を果たすために続けていた活動を今年度も引き続きおこなうこととした。

この目的を達成するために、子どもたちが楽しめ、親たちが安心できるイベントを 4 回おこなった。

実施内容や方法については、研究所スタッフだけではなく、西宮市社会福祉協議会や NPO の方々と協働して考え、実施した。研究所からはスタッフのほか、大学生をボランティアとして呼び込むことにした。社協から地域福祉の観点から、さまざまなアイデアや情報を得た。NPO は災害情報を提供してくれ、それぞれの強みを活かした活動をおこなった。

具体的には、親たちが安心して子どもたちを遊ばせることができるように場所、食材にも気を配り、デイキャンプ、バス旅行、クリスマス会、子ども料理教室をおこなった。

また、その際、大学生ボランティアが子どもたちにつくことで、子どもたちは思いっきり遊ぶことができた。親たちも、安心して子どもから目を離すことができ、親同士の会話も盛り上がった。

それぞれが抱えている経済的な問題や育児上の課題などについて話し合い、情報の交換をする姿が見られた。時間を忘れて話を続けている姿は印象的であった。

活動を通して、県外避難者が関わる課題について理解を深めることができた。精神的な疲労がピークに来ているというところ。その支援として、交流の場づくりがより必要とされていることがわかった。

また継続的に参加している子どもたちが大学生と遊ぶことで、対人的な信頼感を作っていることがその変化からわかった。